



温故知新



年末年始無災害運動は、働く人たちが年末年始を無事故で過ごし、明るい新年を迎えることができるようにという趣旨で、昭和46年から厚生労働省の後援のもと中央労働災害防止協会が主唱する運動で、本年度で44回目を迎えます。一年の締めくくりを笑顔で送り、災害のない明るい新年を迎えるために、「安全最優先」の考え方を基本に、あわただしい時期にこそ、作業前点検の実施、安全な作業方法の確認などを着実に実施しましょう。

【実施期間 2014年12月15日～2015年1月15日】



安全で健康な職場づくりのためには、まず職場の安全衛生に関する状況について、把握することが大切です。
各種チェックや支援システムを活用して、職場や個々の労働者の状況をチェックし、安全衛生活動を強化しましょう。

【今号の主な内容】

- P① 年末年始無災害運動
- P② //
- P③ ことわざ
- P④ パトロール・忘年会のお知らせ



発行

野田工業 株式会社
東京都中央区銀座6-6-19
花菱ビル5F
TEL : 03-3572-1866
FAX : 03-3575-0420

平成26年度年末年始無災害運動実施要領

1 趣旨

我が国における労働災害は、平成22年から3年連続で増加し、平成25年には減少したものの、平成26年に入り死亡者・死傷者数ともに、多くの業種で前年と比較して増加傾向を示している。特に死亡災害が大幅に増加していることから、同年8月には厚生労働省が産業界全体に「労働災害のない職場づくりに向けた緊急要請」を行うなど、引き続き予断を許さない状況である。

特に、団塊世代の大量退職に加え、リーマンショック後のリストラなどによる熟練労働者不足や安全衛生に係る経費削減などによる安全衛生管理体制のほころびが懸念される。加えて、産業活動の活発化により人手不足が顕在化する中で、若年者をはじめ経験が十分でない労働者に対する効果的な安全衛生教育の実施も重要な課題である。

また、第三次産業においては、労働災害が拡大傾向にあるが、重篤な災害が少なく安全に対する意識が事業者、労働者ともに弱く、安全意識を高めるための活動の促進が求められている。

一方、健康面では、精神障害等による労災認定件数が前年も400人を超えていること等から、職場におけるメンタルヘルス対策の取組みは依然として重要な課題となっており、過重労働、腰痛、化学物質等による健康被害等も看過できない。このような変化に即応するため、平成26年6月に労働安全衛生法が改正され、化学物質のリスクアセスメントの義務化、従業員へのストレスチェックの実施等の義務化、受動喫煙防止対策などが実施されることとなったが、職場の安全と健康を確保するためには、経営者、労働者双方が改めて安全衛生意識、危険感受性を高めることが必要である。特に経営トップは、強い決意のもと自らが先頭に立ち、安全衛生活動について総点検を行い、安全衛生管理体制の見直し、安全衛生教育の徹底をすることが必要である。

とりわけ年末年始は、あわただしく、生活のリズムも変わりやすく、大掃除や機械設備の保守点検・始動等、非定常作業が多くなる。各事業場、職場では、作業前点検の実施、作業手順や交通ルールの遵守、非定常作業における安全確認の徹底等に努めることが普段にも増して重要となる。

このような趣旨を踏まえ、本年度の年末年始無災害運動は、

「安全の足並み揃えて手を抜かず 年末年始もゼロ災害」

を標語として展開することとする。

ことわざ・格言にならう 安全衛生訓



●打たねば鳴らぬ●

指差し呼称はしっかり

「打たねば鳴らぬ」とは、太鼓や鐘は打たなければ鳴らない。何事も為すにしても、行動を起こさなければ、結果や成果は生まれてはこない、という意味です。

「叩けよ、さらば開かれん」というキリストの言葉もあります。

「指差し呼称」が確認の正確度を高め、誤操作などを防止し、安全な行動を行うための有効な手段であることはよく知られています。

何しろ行動の正確さが3倍にもなるといわれているからです。

この指差し呼称の方法は、「確認すべきことをしっかり眼で見て、腕を伸ばして指を差し、大きな声で」行う必要があります。

「指差し呼称が良いことは分かるけど、どうも…」と、声出しや、腕伸ばしなどを、正しく実行していない人を見かけます。

指差し呼称もきちんとやらなければ効果が上がりません。

「打たねば鳴らぬ」、そして「打てば響く」のです。みんなで指差し呼称を実施して、職場の中に安全を響き渡らせましょう。

●煙硝背負って火事場へ急ぐ●

緊急事態には冷静な行動を

「煙硝背負って火事場へ急ぐ」とは、火薬(煙硝)を持って火災現場に行くような危険なこととはやめなさい、さらに危険になるよ、という警告です。

外国にも「油をかけて火を消す」ということわざがありますが、火を消すどころか、大変な二次災害になってしまいます。

とくに化学品や危険物、高圧ガスなどの漏洩や火災の現場では、その物質の性状に応じた対処をしないと、文字通り火に油を注ぐことになりかねません。

私たちの身近で火災などの緊急事態が発生したりすると、パニックになってしまい適切な対応とはちぐはぐなことをやってしまいがちです。米国のスリーマイルの原発事故の際は、運転員のほとんどがパニック状態になり、間違った行動をとったため被害を大きくしたと言われています。

緊急事態のときほど、冷静で安全な行動が必要です。そのためには普段から各種の緊急事態を想定した訓練や教育を実施し、みんなが適切に対応できるようにしておくことが必要です。

《安全パトロール》

平成26年10月20日(月)野田工業㈱研究会のみなさんと安全パトロールを行いました。

【現場名】成田徳州会病院

【建築】大成建設㈱

【設備】高砂熱学工業㈱

【職長】(有)新井工業 新井(優)さん

【保温工事】(有)新井工業所

【PTメンバー】関口(嘉)・神尾・中田・田村・深澤・小川・新井・幸地



施工に大変気を使う現場で隠蔽部も露出仕様と変わらないなど、作業員の方々には安全は元より施工に関しても注意をさせて頂いてます。
成田山新勝寺が近くでしたのでお参りもして来ました。
機密保持の為現場内の写真記載ができなくなっています。



忘年会のお知らせ

★日時

平成26年12月6日(土)

★時間

18時30分～約2時間予定

★会場

語らい処「坐・和民」 銀座土橋店
東京都港区新橋1-3-10 1階

TEL 050-5522-4079

新橋駅 銀座口/日比谷口 徒歩2分

